

コミュニティ・スクールだより

第3回学校運営協議会を開催しました

2月16日（金）、多々良中学校図書室において、学校運営協議会委員12名、多々良中学校教頭、コミュニティ・スクール担当、市教育委員会学校教育課指導係長が参加して、令和5年度の第3回学校運営協議会を開催しました。

全員での授業参観の後、今年度実施したコミュニティ・スクール活動の報告と今後のコミュニティ・スクール活動についての熟議を行いました。



【熟議の様子】

☆今後のコミュニティ・スクール活動についての主な意見☆

- ・地域の団体と生徒会の共同作業で昨年度から行っている学校花壇の整備は、これからも継続していきたい。
- ・学校花壇の整備については、公民館の利用団体である多々良地域ボランティアの会が協力団体の一つとなっており、公民館としては団体との連絡調整など、学校からの要望に応じてできる力をお貸ししていきたい。
- ・今年度実施した学校運営協議会委員と生徒との懇談は、直接、生徒の考えを聞くことができた良い機会であったので、今後も行っていきたい。
- ・生徒のスマートフォンの利用に関して、生徒の生の声を聞く場を設定して、問題点やその解決策を検討したい。
- ・多々良公民館まつりに参加していた関東学園大学附属高等学校の太鼓の演奏を聴いて、子どもが太鼓に憧れを持つようになった。地域にはたくさんのお手本があるので、生徒が地域とふれあう機会を持ってほしい。
- ・地域にはボランティアに参加することで生きがいを感じる方もいるので、学校運営協議会が橋渡しになり、情報をつないで、そういう方を発掘できればよい。

- ・地域の特性を生かすことがコミュニティ・スクール活動にとっては大切なので、地元の多々良沼を含む日本遺産「里沼」の学習は継続してほしい。
- ・中学2、3年生の頃に将来の職業への夢を持ち、夢を叶えようとする気持ちが、その後の進路の選択や普段の生活の中でも生かされる。キャリア教育は大切であると思う。
- ・地域の高齢者とふれあい、地元に関することも含めて知識を伝える場があつてよい。知的財産を継承する場を設けて、子どもたちに学ばせたい。
- ・SNSが入ってきてから人間関係が希薄になり、生徒は対面の顔とSNS上の顔の二つを持っており、対面では考えを出せない子もいる。以前、いじめ防止に関するフォーラムに参加した際、小中学生にはどのような言葉で伝えたら伝わるのか、小中学生の意見を聞いて参考になった。コミュニティ・スクール活動では世代間の交流ができるので、小学生、中学生、高校生の集まる機会があればよい。

～令和5年度（後期）のコミュニティ・スクール活動より～



○合唱祭の練習を第八小学校児童に披露

10月19日（木）、1年生が、多々良中学校合唱祭の練習を第八小学校6年生に披露しました。来年度、中学生となる皆さんに学校行事に触れてもらう機会になるとともに、小学生と中学生の交流の場となりました。



○家庭科の実習をボランティアが学習支援

10月31日（火）と11月10日（金）、1年生の家庭科での手縫いの実習において、更生保護女性会多々良支部の皆さんが指導の補助をしてくださいました。教諭一人では全員に細かな指導が難しい実習において、心強い支援となりました。



○外部講師による日本遺産「里沼」の学習

2月13日（火）と2月27日（火）、群馬県自然環境調査研究会を講師に迎え、総合的学習の時間において、1年生が日本遺産「里沼」（多々良沼）の植生や自然環境保護について学びました。